

みのかもの自然
危機にある | あたりまえ | 10

文化の森 ☎ 28-1110

イラスト：渡辺 崇



ニホンモモンガ (リス科)

森の中の木の上で暮らすリスの仲間。日没後に木から木へと滑空してエサを探します（夜行性）。かつてはブナ・モミ・スギなどの落葉広葉・針葉の混合林に多く生息していましたが、人間の生活の変化とともに、森にはスギやヒノキなどの常緑樹が植えられるようになり、今では神社仏閣などの「鎮守の森」にわずかに残された落葉広葉樹の森が生活の場所になっています。8月号で紹介したフクロウの仲間である「アオバズク」なども同じようにすみかを変えてきました。

近年この地域では確認できていません。飛騨地方ではまだわずかに生息しています。これからも、生息環境の変化も含めて、丁寧な調査と記録を残す努力を続けなければならない種です。

(美濃加茂自然史研究会 かじうらけいち 梶浦敬一)

